

2024年5月15日
第156号



国労九州

〒812-0013 福岡市
博多駅東3丁目9番
3号アフラック1003
092-483-1515
発 責 手々岩隆
編 書 水滸 彰



核のゴミ押しつけ反対!

玄海町は住民無視の文献調査を撤回すべき!



佐賀県玄海町の脇山町長が5月10日原発から出る高レベル放射性廃棄物(核のゴミ)最終処分地選定の第一段階にあたる文献調査を受け入れると表明しました。原発立地自治体では初となります。4月26日に町議会が文献調査応募を求め、1回目の審議は4月10日とわずか10日後には採択され、住民には説明会など何も開催されずに、拙速に採択されたと言われてもしかたありません。町長は、町議会が受入採択をしたことを重く受け止めた。受

け入れに反対する請願もなかったとしていますが、玄海原発対策会議や唐津市民の会などの市民団体が受け入れ反対の抗議行動を行い、申し入れを行っていましたが、そうした声は無視されました。

17年度に政府は、国内の3分の2の地域が最終処分場に適しているとする「科学的特性マップ」を作成し全国各地の自治体への働きかけを始め、これまでに北海道の寿都町、神恵内村で実施され3例目となつていきます。しかし、その特性マップによると、玄海町の地下には石炭が埋蔵されており、ほぼ全域が処分場所としては好ましくないとされています。さらにメタンガスの発生の懸念もあることから、石炭層を岩盤とする場所に処分場を建設するのは無謀な行為という専門家の指摘もあります。核のゴミは極めて強い放射能をもち万年単位と途方もない長い管理が必要となります。日本は、地震多発国であり、長期的に安定的な地層があるとは思えません。

東日本大地震で福島原発が被災し、原発建屋が吹き飛び、多

くの地で帰還困難者が生れ、未だに故郷に帰れない人がいる事を忘れたのでしょうか。福島の事故を受け、世論は再生可能なエネルギーを求めてきたのに、岸田政権は原発回帰に踏み切りました。持つて行く先のない核のゴミは増え続け各原発に溜まり続けていきます。核のゴミ処分も原発も行き詰まりは明らかです。国労は、再生可能なエネルギーを軸とした政策に転換することを求めます。

※文献調査を受け入れた町は最大20億円の交付金があります。

がん保険にできることを、もっと。

NEW
「生きる」を創るがん保険
WINGS

No.1 アフラックがん保険 がん保険 がん保険 がん保険

1 幅広い保障で 経済的負担をサポート
治療前の検診から治療後の外見ケアまで幅広い保障でしっかり備えることができます。

2 付帯サービス<アフラックのよりそうがん相談サポート<※1>>
(2023年1月23日サービス提供開始予定)
アフラックのよりそうがん相談サポーターがさまざまな悩みの解決をサポート
「がんかもしれない」と思ったときから専門知識を持つ相談員が親身にお応えします。

(※1)アフラックのよりそうがん相談サポートはHatch Healthcare株式会社またはHatch Healthcare株式会社の提携先が提供するサービスであり、アフラックの保険契約による保障内ではありません。サービスの詳細は、アフラックオフィシャルホームページ(<https://www.afac.co.jp/keiyaku/gansoudansupport.html>)をご確認ください。

アベニール株式会社
〒105-0004 東京都港区新橋5-15-5
交通ビル3階
TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822

アフラック
東京第二法人営業部
東京都千代田区丸の内1-6-1
丸の内センタービル15階
TEL.03-6385-9829 FAX.03-3218-3885